清水卓先生への献辞

清水卓先生は2015年7月に古希を迎えられ、2016年3月末をもって駒澤大学を退職されます。

清水先生は、東京教育大学の物理学部に入学されたのち文学部へと転部されました。文学部社会科学科経済学専攻を卒業されたのち同大学院文学研究科に進まれ、駒澤大学には1978年4月に講師として着任されました。1982年には助教授、1991年には教授になられ、その間、多くの学生を社会に送り出し、経済学部の発展に多大な貢献をいただきました。同時に、1993年には第2部経済学科の主任、2003年には経済学部長を務められたのち、2006年には教務部長として多忙を極める中、全学的な教育研究環境の整備に尽力されました。

ご研究においては、特に農業政策を中心にEU域内共通政策と各国経済特にフランスの国内農業政策との関係性を分析してこられました。

一口にEU諸国と言っても、それは、多種多様な地理的空間に置かれ、独特の歴史と文化を有し、それゆえ生産される農産物の種類も生産者の特徴も異なる国々の集合体です。それぞれの地域の特徴を押さえた上で、集合体としての共通政策と国家政策との相互関係とその影響を緻密な分析によって読み解いていく先生の研究姿勢は常に一貫しており、恐れ多いことではありますが、私は後輩の研究者として、グローバル経済、欧米経済、アジア経済などと、ともすれば多様性を看過して一括して論じようとすることへの自省を促す先生のご研究から多くのことを学ばせていただきました。

先生は著書・論文はもちろんのことその語学力を生かした翻訳にも数多く取り組まれ、また農水省や農政調査委員会の報告書作成にもご尽力されました。多忙を極める公務のもとでも、農業問題研究会の幹事や土地制度史学会の幹事を歴任されました。多くの研究成果を世に送り出されたことに心より敬意を評するものです。

各国経済分析を視座に据えるという経済学部の優れて先進的な取り組みを担われてきた先生が作り上げてきた成果を引き継ぎ発展させるためにも、今後ともご健康に留意され、ますますのご研究の発展を祈念いたしますとともに、私共後継の研究者への変わらずご指導を賜ることをお願いするものです。

経済学部長　姉　歯　　暁